

- 再生可能エネルギーの活用：創エネ
- 建物の省エネルギーの徹底：省エネ
- 森林整備・保全によるCO₂吸収：固定

三重大学 キャンパスのカーボンニュートラル (地形の変化編)

知っていますか？
キャンパス全域が**鬼が塩屋遺跡**の範囲です。

遺跡から

■ 気候変動影響と文化財

近年、海面上昇による冠水など気候変動や災害などによる文化財への被害や影響が生じています。気候変動の影響を軽減するための適応策として、文化財の位置や状況と起こり得る災害の把握が重要とされています。

上浜キャンパスでは、大学の記録や上空からの空中写真だけでなく、遺跡の発掘調査においても、過去の地形の変化が確認されています。

現在のキャンパスは、昭和40年代に三重高等農林学校の開学以来の敷地を拡張して造成されています。一見、平坦に見えるキャンパスですが、[1960年代の上空からの写真\(地理院タイル\)](#)をみると、現在の図書館や環境情報科学館付近に樹木の林が円形に残っており、起伏のあったことがわかります。

◆ 弥生時代からの地形の変化が確認されています

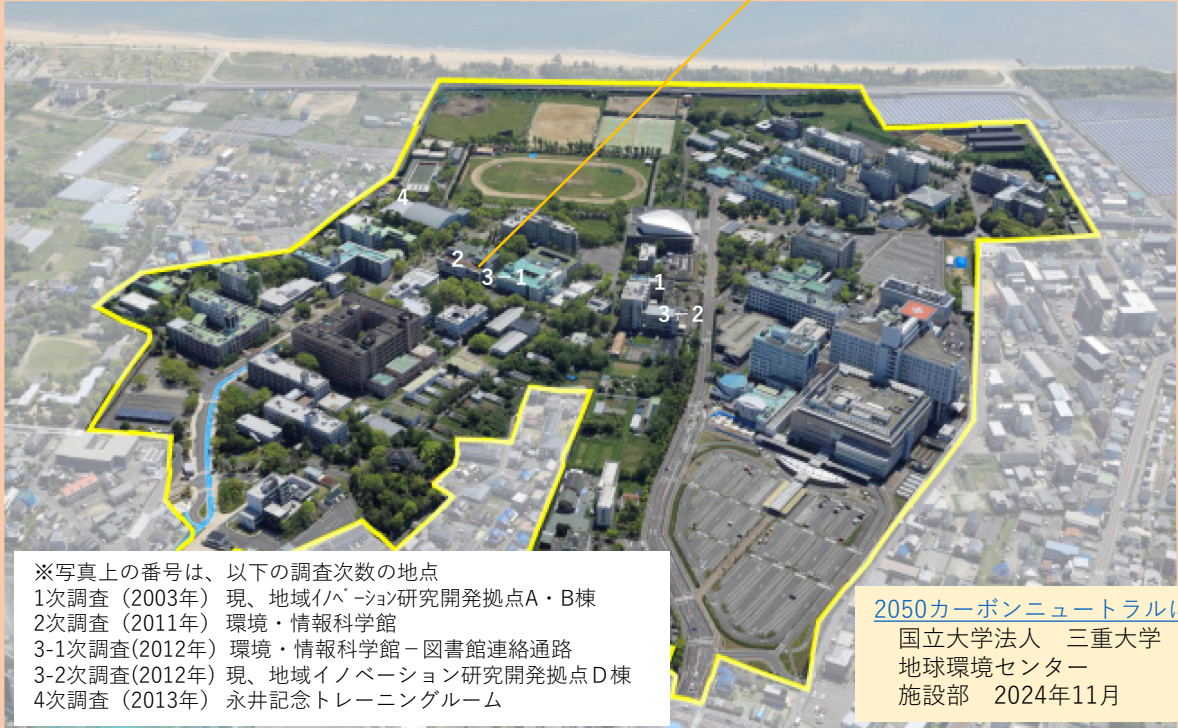
■ 鬼が塩屋遺跡

2003年にキャンパスで初めて土器が発見されてから、建物の建築に伴う発掘調査が5か所で実施されています。

これまでに調査を重ねてきた結果、かつて地上であった遺跡が時を経て現在は地中に埋もれており、キャンパスの地下の土質は各地点によって、様相が全く異なっていることが明らかになってきています。



鬼が塩屋遺跡の説明板 (地域イノベーション研究開発拠点A・B棟 (東側))



※写真上の番号は、以下の調査次数の地点
 1次調査 (2003年) 現、地域イノベーション研究開発拠点A・B棟
 2次調査 (2011年) 環境・情報科学館
 3-1次調査(2012年) 環境・情報科学館-図書館連絡通路
 3-2次調査(2012年) 現、地域イノベーション研究開発拠点D棟
 4次調査 (2013年) 永井記念トレーニングルーム

上浜キャンパスに影響した災害※1

■ 昭和東南海地震※2 (1944年12月7日)

三重大学の前身の三重高等農林学校時代に、0.4mの地盤沈下が生じたほか、農林博物館が以後廃館になる被害が発生

※1 『三重大学50年史』通史編・資料編1999年 p.182
 ※2 熊野灘を震源とするマグニチュード7.9の地震。津市島崎町で当時の震度6を観測 (現在の震度階級で震度6弱からに震度7相当) 津地方気象台 ホームページ2026年3月25日閲覧



三重大学マスコットキャラクター ミールド

2050カーボンニュートラルに向けた取組計画

国立大学法人 三重大学
 地球環境センター
 施設部 2024年11月

